

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	・ベネッセ「スタディーサポート」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度 ・ベネッセ「GTEC for students」におけるスコアの上昇
計画名	次世代女性リーダーの育成

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>① “誇り高い強い女性”を育成するために学力・精神力を強化すると前述したが、学力・精神力の強化とは、内部競争力を高め、進学意識を高め、達成感を持たせるように指導することと考える。</p> <p>② 「英語」をテーマにした具体的な取組みの実現 音声中心英語教育の実践による英語コミュニケーション力のアップと、受験英語への対応をおこなった。継続して実施する。</p> <p>③ キャリア支援の充実 年間を通じて、併設短期大学はもとより、教育連携を結ぶ大学を中心に、生徒の大学教育に対する理解・関心を深めるための種々の取組みを実施する。高校1年生を対象として、外部講師による講演会、大学見学バスツアー、大学体験などを実施。高校2年生を対象として、専門研究機関の協力による実験、病院や幼稚園での実習体験、農家での農業体験(春・秋)、大阪教育大学教授陣による授業シリーズ、20数校の大学・専門学校の先生方による授業体験、学問分野別説明会などを実施。高校3年生を対象として、進路説明会や「面接の為のマナー講座」などを実施した。内容を検証し、充実する方向で継続実施する。</p>
事業目標	<p>本校は、生徒一人ひとりがカトリックの精神に基づく人生観をもちそれぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図るとともに、人間としての豊かな心と主体性をもって、進んで国際社会に貢献する明朗で健康な女性に成長することをめざす。</p> <p>本校の教育の指標である、「五つの心」（祈る心・学ぶ心・奉仕する心・和する心・賛美(感謝)する心)の定着度合いを検証するため、2種類の評価指標を使用する。まず、「スタディーサポート」は、現在の学力の状態と生活習慣の両方をチェックするテストであり、生徒が希望する進路をかなえるために、今、取り組むべきことが明らかになる。次に、「GTEC for students」は、技能別の英語運用力を絶対評価で示されるため、生徒は日々の学習に手ごたえを感じ、教員は個々の技能別の英語レベルを確認することができる。これらのデータをICTサービス「Classi」で管理し、教員が生徒一人一人の状況に応じた的確な指導を行うことで、次世代で活躍する女性リーダーの育成を促進する。</p> <p>具体的には、次の目標を掲げる。①「スタディーサポート」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度(以下、GTZ)のB2以上を年度ごとに約5ポイント上昇させ、2年後に生徒全体の25%、3年後に30%を達成する。②「GTEC for students」のスコア平均を年度ごとに40上昇させる。</p>
整備した 設備・物品(数量)	ASUS Chromebook (特別教室・教員)、Chrome/Chromebook Management Service for Education、Google Chromecast Ultra (特別教室)、Apple TV 64GB (特別教室)、HDMIハイスピードケーブル3m (特別教室)、Buffalo 無線LANルーター (特別教室)、EPSON 書画カメラ ELPDC21 (特別教室)、プリントサーバ用Windowsマシン (職員室)、プリントサーバ用24インチ液晶モニター (職員室)、ノートPC充電保管庫 (特別教室)、EPSONプロジェクタ (特別教室)、EPSONワイド82型プロジェクター一体型ボードスタンド (特別教室)、ELECOM HDMI変換アダプタ (普通教室)、教室天井吊りプロジェクタ用HDMIケーブル壁面端子増設工事 (普通教室)
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：進路指導部 取組みの実施者：進路指導部、各教科担当者
本年度の 取組内容	<p>◆ プラクティカル・イングリッシュ Chromebookを利用して、英語のプラクティカル・イングリッシュ(本校独自のアウトプットを中心とした授業)の中で、生徒が読んだ英語を自動的にディクテーションするアプリケーションを用い、発音が正しいかチェックする。提示された英文を読み、それに関連したテーマについてグループで話し合い、意見をまとめChromebook上で英文のエッセイを仕上げる。それを教員に配信し、プロジェクターで全員の前で写しながら英語でプレゼンテーションをする。同時に英文の文法間違いを訂正する。</p> <p>◆ 総合的な学習の時間 本校の総合的な学習の時間は、高1で「読む」、高2で「書く」、高3で「発信する」という形で行う。高1では、図書館にある文献を用いて、グループ単位で調べ、ポスターでまとめ、ポスターセッションによって発表する。高1で培った、文献を調べてまとめる力を、高2では、個人単位に置き換えて、書く力を養う。その方法は、個人ごとにChromebookを使用し、世界中の文献を調べ、論文の材料を収集し、論文を作成していく。この論文のチェックやアドバイスも、Chromebookを用いて行う。論文の中間発表も、Chromebookを利用する。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>◆ プラクティカル・イングリッシュ ① Chromebookを使って発音チェック・リスニングクイズ・レポート課題を行い、観点別に評価する。 ② 課題を与えることによって、自宅でパソコンやタブレット・スマホなどのデバイスも使いこなせるようにする。 ③ エッセイ課題を通して、担当教員やクラスメートからの即時のフィードバックを与え、英語力のブラッシュアップを図る。今年度は11月からChromebookの使用を開始したので、成果を検証するためにも、来年度も引き続き活用し、更なる英語力向上を狙う。</p> <p>◆ 総合的な学習の時間 担当教諭が、生徒にChromebookを教材とし、以下の項目を指導・教授する。 ① 本校の図書館だけの文献からだけでなく、HPを利用して世界中から論文の資料を集めさせる。 ② 上記①で収集した資料をまとめさせ、クラス内で中間発表をさせる。 ③ 上記②でまとめた資料を使い、中間発表でのアドバイスを参考にし、ドキュメントに論文を書かせる。 ④ 生徒への指導手段の1つに、クラスルームを利用する。</p>
自己評価	<p>◆ プラクティカル・イングリッシュ ① 最初、生徒たちはChromebookの使い方に戸惑っていたようだが、慣れてくると抵抗なく使いこなせるようになった。(◎) ② パソコンには慣れている生徒たちにも、新しいデバイスを提供できて将来大学に進学したときにも役に立つと思われるので大変良かった。(◎) ③ 英文を書くのも、紙媒体ではなくキーボード上ですぐに書き直せるので書きやすかったようだ。(◎)</p> <p>◆ 総合的な学習の時間 ① Chromebookは、使いやすく、喜んで利用していた。木ボードがアップルに近いので、多少戸惑うこともあったが、すぐに慣れて、手際よく使用していた。(◎) ② HPを自由に開くために、遊びだす生徒も出てくるかもしれないと思い、様々な問王策を考えていたが、思い過ごしであった。何も問題なくこちらの指定したサイトを開き、論文や資料を集めていた。(◎) ③ 総合学習以外の教科でも、利用したいという声が上がっていた。今の学習スタイルに適した教材であると感じた。(◎)</p>
次年度に向けて	<p>本計画の評価指標である、「スタディサポート」は次年度4月と8月、「GTEC for students」は6月に実施する。Chromebookを導入後、最初の評価となるので、目標値に達するように全教員で生徒の学力向上に努める。結果が返却されてからは、詳細な分析を行い、次の指導へと役立てる。</p> <p>また、Chromebookの利用方法は、生徒よりも、教員への浸透が必要であると感じた。Chromebookの利用方法に関して、次年度1学期中に再度検討を行い、多くの教員が関与しながらさらなる有効かつ効果的な利用に努める。</p>